

進路状況報告

東大・京大
東工大・一橋大 25名

東大18名合格
筑波大47名で全国トップ

進路指導部長 木村 幸彦

平成28年度入試は、全教科で新学習指導要領のもとで実施された。前年度は、過年度生に対しては移行措置がとられたが、今年度は、移行措置のない純粋な新課程の入試となった。大学生の就職状況の改善と新課程での理科の負担増により、長年続いた「文低理高」が、昨年あたりから沈静化した。さらに、理系のセンター試験平均点ダウンにより、国公立大学の志願者数は、5年連続で減少した。一方、私立大学の志願者数は、入試方式の複線化・多様化、国公立大学への敬遠傾向による併願校の増加などにより10年連続で増加した。センター試験志願者数は、約56万3千人で、前年度より約4、600人の増加であった。国公立大の志願倍率は4・66倍(国立4・22、公立6・39倍)で、前年度の4・67倍よりやや低下し、5年連続の減少となった。本校生の多くが受験する難関大では、京都大、東工大、北海道大、一橋大、九州大が増加、東北大、名古屋大、神戸大はやや減少、東京大は大幅減少であったが、後期廃止によるものであり、難関大全体としてはやや減少であった。学部系統別では、理系

は、前年並みから減少の系統ばかりであったが、文系は、「社会」の大幅増加をはじめ、「経済・経営・商」「法」「国際関係」など多くの系統で増加した。

センター試験の本校生の平均点は、文系が649・9点(前年比マイナス15・6点)、理系が645・0点(前年比マイナス31・3点)で、やや苦戦したが、例年通り、第一志望(主に難関国立大)を最後まで諦めずに挑戦した生徒が多かった。

入試結果について、主なものを挙げると以下のようである。

東大18名(新卒7名)
京大3名(新卒1名)
東工大2名(新卒2名)
一橋大2名(新卒2名)
東北大12名(新卒6名)
筑波大47名(新卒37名)
国公立大医学科17名(新卒6名)

東大は昨年度23名、今年度18名と5名減少した。現役生は、文系に2名、文三に1名、理一に2名、理二に1名、理三に1名の計7名が合格、理三合格は、19年ぶりであった。地元筑波大は47名(内医学類8名)合格で全国トップ、北海道大は11名、東北大は12名が合格した。昨年度より合格数が減少してしまっことは否めないが、現役生も過年度生も難関国公立大を目指す姿勢を崩さずによく健闘したといえる。昨今、高校・大学の教育改革及び高大接続の入試改革が急速に進んでいる。今後は、より一層情報収集に努め、学習指導・進路指導の充実を図っていき

平成28年度入試合格状況

国公立大学

私立大学

*新卒は内数です

大学	合格者	新卒
旭川医科大	1	
北海道大	11	8
東北大	12	6
秋田大	2	2
茨城大	16	15
筑波大	47	37
宇都宮大	1	1
群馬大	2	1
埼玉大	2	2
千葉大	9	7
お茶の水女子大	7	5
電機通信大	1	1
東京大	18	7
東京医科歯科大	1	1
東京海洋大	1	1
東京外国語大	2	2
東京学芸大	4	2
東京芸術大	1	1
東京工業大	2	
一橋大	2	
横浜国立大	3	3
上越教育大	1	1
富山大	1	

大学	合格者	新卒
金沢大	1	
信州大	5	4
静岡大	1	
浜松医科大	1	
名古屋大	2	
名古屋工業大	1	
京大	3	1
大阪大	5	2
神戸大	2	2
広島大	1	
山口大	1	
熊本大	1	
大分大	1	
宮崎大	2	
秋田県立大	1	1
首都大東京	2	1
国公立大計	177	114
(うち医学科)	17	6

大学	合格者	新卒
青山学院大	17	10
学習院大	9	4
慶応大	25	7
国際基督大	3	3
上智大	9	6
中央大	30	13
津田塾大	5	4
東京女子大	5	1
日本女子大	6	4
東京理科大	73	32
明治大	52	32
立教大	19	15
早稲田大	55	31
法政大	34	18
北里大	9	4
芝浦工大	13	6
日本大	27	15
立命館大	5	1
その他	140	74
私立大計	536	280
合格者総数	713	394